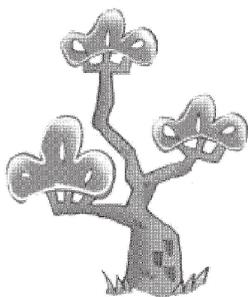


ボランティア通信

～松本中学校～

目次：

生徒が輝く場面をつくるために 英語英文学科4年 上村ともよ
教壇に立つ上で大切にすること 情報システム創成学科4年 野辺沼龍市
一人を大切にするため 全員を大切に 自治行政学科3年 井上恵理
生徒の理解 経営工学科3年 神代正太郎
一人を抱え込まない 人間科学科3年 落合宏弥
現場を知る 経済学科3年 時盛勇也



生徒が輝く場面をつくるために

英語英文学科4年 上村ともよ

私は今年度の10月から松本中学校で英語科のATとして活動させていただいています。私がATを始めたのは、残り半年間の大学生活で「学校現場にもっと関わりたい」と思ったからです。これまで学校現場を見ることが少なかった私は、「先生は生徒とどのようにかかわったらよいのだろうか？」という漠然とした不安がありました。現在はATに挑戦することで、これらの不安を少しでも解消し、学校現場からさまざまなことを学ぼうとしているところです。

ATを始めてまだ数回ですが、授業と学校行事を通して、あるクラスの変化を見ることができました。そのクラスは、普段の授業では落ち着きがありませんでした。数人の男子が授業に集中できず、教室で立ち回っている様子でした。私がATに入ったときには、生徒を自分の席に座らせることから始まります。はじめは「大変なクラスだ、これでは授業にならない」と感じていました。その頃、学校行事である合唱コンクールが近づいていました。私がいつも授業に入っていた担任の先生に、「授業とはまた違った生徒の一面をみてほしい、きっと驚くよ」と、合唱練習に誘われました。そのクラスの教室に入ると、授業では落ち着きのない生徒たちがみんなの前に立って指示を出しているところでした。男声パートから「音程が難しい」という声が挙がると、男声パートの音声が入ったCDをかけ、「女声は男声につられてしまうかもしれないけど、男声の練習のために協力して！」と、クラスのために工夫して練習しようとする姿がみられました。クラスのみならずその生徒の指示にうなずいたり、反論することもありましたが、生徒のどの言葉も「～しよう！」や「みんなで頑張ろう！」という前向きな言葉で溢れていました。合唱コンクール本番でこのクラスは二番目の賞である優秀賞を受賞し、悔しがる生徒もいましたが、「みんなで頑張ったよね」と涙を流し、お互いを認め合う様子が見られました。

私がこのクラスの授業と合唱練習の様子を見て感じたことは、「生徒一人ひとりが輝く場面をつくる大切さ」です。私がかし、授業でしかこのクラスを見ていなければ、このクラスのことを「落ち着きのないクラス」とイメージ付けていたかもしれません。授業に集中できない生徒のことを「この子はこういう子なのだ」と決めつけていたかもしれません。しかし、どの生徒も輝くことができる可能性を持っています。授業以外で生徒一人ひとりが活躍できる場面は多様にあります。それは部活動や学校行事、もしかしたら日ごろのささいな生活の中なのかもしれません。先生は生徒のその無限の可能性を引き出すことができます。私はこの体験を通して、生徒の新たな一面が見られることに楽しさと新鮮さを感じるようになりました。松本中学校でATをさせていただける期間はわずかですが、一日一日を新鮮な気持ちで生徒とかかわっていきたくと思います。

ボランティア通信～松本中学校～

教壇に立つ上で大切にすること

工学部4年 野辺沼龍市

昨年度の10月から松本中学校で数学のアシスタントティーチャー(以下AT)をしています。ATを始めて1年が経ち、来年の4月からは学校現場に携わることを希望しています。今までは生徒との距離を縮めることや先生方とのコミュニケーションをとることを目標に取り組んでいました。この1年の経験と自分の将来を考えた時に、来年私自身も教壇に立ち、生徒と関わっていくんだと思うようになり、また違った目標を持つようになりました。それは、「私自身が教壇に立つ上で大切にすること」です。現場の先生方が行っている学級経営や授業を見させていただき、それを参考に自分なりの教壇に立つ上で大切にしたいことを見つけ出そうとしています。

1学年のある学級の先生は、生徒をまとめることがとても上手です。学級活動においても授業においても、参考になるところがたくさんあります。その先生の見習いたい点は、どんな時も楽しそうにやっていたりしゃることです。学校生活の中で特に生徒たちが日々感じ取るのは、その時々々の空気感や先生が創り出している雰囲気だと思います。その先生の雰囲気が毎回の授業で生徒に伝わり、生徒たちを楽しませています。その授業を見て、教壇に立つときに一番大切なのは、先生自身がどんな状態で生徒の前にいるかということだと思いました。教壇に立つために、どの先生方も準備をしてから立っていらっしやいます。「今日はどんな話を生徒たちにしようか」「今日の授業はこの教材を使ってやってみよう」など、先生方の準備の取り組みがとても参考になりました。そして、自分らしさを出すことが教壇に立つ上で大切なことだと感じました。

どんな仕事でも、色々な価値観を持った人がいます。その中で一緒に仕事をしていくためには、やはり足並みをそろえたり、一定のルールに基づいて何かをしたりすることがとても大切になると思います。また、

年上の経験のある先生方の前で自分らしく居続けることは難しいことだと思います。だから、そのようなことを含めて、教壇に立つ上で一番大切なのは、どんな時でも自分が自分らしくいられる状態をつかって臨めることだと思います。そして、その自分らしさが生徒に伝わり、生徒から保護者に伝わり、色々な人に影響を与えていくのではないかと思います。

一回一回の活動で、担当の先生は「次回はこのような視点を持ってみてください」

「あなただったらこのような場合どのように考えますか」など、次へと繋がる課題を提示して下さいます。このやりとりが私自身の中ではとても大きいため、ATとしての活動にやりがいを感じます。残り少ない活動になりますが、授業だけでなく学校行事にも携わる機会が増えたので、授業外での先生方の取り組みを見ることもとても良い経験になります。私の中で、「教壇に立つ上で大切にすること」はまだ答えとして出てはいませんが、自分らしさを出すこと、生徒の声に耳を傾けることが大切なのかなと思っています。今後のATの活動でも先生方の動きに注目して、教壇に立った時に繋げていきたいです。



ボランティア通信～松本中学校～

一人を大切にするため全員を大切に

自治行政学科3年 井上恵理

松本中学校で社会科のアシスタントティーチャー（以下 AT）を始めて1年が過ぎました。現在は、毎週金曜日の午前中にATをさせていただいています。ATを始めてからずっと社会科の支援をしてきました。先生方の授業から指導方法を学び、生徒の学習支援をする中で生徒との関わり方を知りました。また、授業中生徒の前で発表する機会を設けていただくこともあり、本物の生徒を相手に話すという貴重な経験も沢山させていただきました。社会科の授業の他に、文化祭での生徒の合唱を見て、いつも違った生徒の様子を見ることもできました。

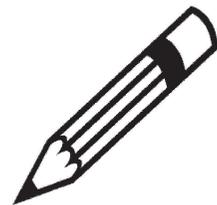
今までは上記のように社会科の支援をしていましたが、最近是不登校生徒の支援も始めました。ある生徒から「いじめを受けたため、今は学校に行っていない」と聞きました。その時とてもショックを受け、私は苦しんでいるその生徒のために何かしたいと思うようになりました。詳しく話を聞くと、全く学校に行っていないというわけではなく、保健室登校をしているということでした。「一人で勉強していて寂しい」と聞き、「ATとして中学校を訪れる日に顔を見に行くよ」と約束しました。大学の先生と中学校の先生方のお話し合いの結果、授業支援ではなく、不登校生徒の特別支援に携われるようになりました。

特別支援の内容は、生徒の授業課題への取り組みをサポートすることです。授業に出ていないため、その遅れを取り戻せるよう全教科の学習を進めています。ただ学習をするだけではなく、雑談をしたり進路の話をして落ち着ける場所となるようにしようと思っています。

そして、11月頃からは外国につながる生徒の特別支援も行うことになりました。私はもともと火曜日にATをしており、もう一人火曜日にATがいたため、特別支援が必要な生徒が二人であっても、一対一で見ることができました。ただ、この二人の生徒の

ことを考えると、一対一で見ることよりもATが支援をできる日にちを増やした方が良いと言われ、金曜日にATをすることにしました。私は最初、AT一人で二人の生徒を見ると、今までのように保健室登校をしている生徒と将来の話や雑談ができなくなり、落ち着ける場所が作れなくなってしまっているのではないかと不安になりました。このことを学校ボランティアの先生に相談したところ、「片方の生徒のことだけを考えるとそうかもしれないが、二人の生徒それぞれのことを考えると、やはりできるだけ多くの日にちで支援できるといい」と言われました。

その時、私は本当に一人の生徒のことしか考えることができていなかったのだと気づきました。教師は誰かを特別扱いすることはできないと知ってはいました。しかし、直接いじめを受け保健室登校をして寂しい思いをしていると聞いたことで、その生徒のことしか見えなくなり、特別扱いをしてしまっていたのです。私にとってその生徒はとて大切な生徒です。丁寧に関わっていきたくとも思いました。悩んだ末、今後は特別支援の必要な生徒が二人でも三人でも全員を大切にしようと思つて心に決めました。最初に「何か力になりたい」と思った生徒と同じくらい大切に接していきたくので、松本中学校の先生方やATと協力して、生徒の支援をしていきたいです。



ボランティア通信～松本中学校～

生徒の理解

経営工学科3年 神代正太郎

松本中学校で、週に1日 ATとして活動しています。担当は、主に1年生の数学です。今年の4月から始めたATの活動にも少しは慣れ、徐々に周りを見る余裕が出てきました。その中で後期の活動の目標としていることは、「授業以外の学校生活にも注目して、より深い生徒理解につなげる」です。

後期に入って、体育祭と文化祭にサポートとして参加しました。夏休みには、1年生の中からメンバーを募り、数学科の課外活動として訪れた数学博物館にも引率者として付き添いました。やはり、授業では見ることのできない生徒の姿がそこにはあるので、違った角度から生徒を見ることが出来ます。例えば体育祭では、3年生がいつも以上にリーダーシップを見せ、1、2年生を引っ張ります。その3年生の中には、普段の授業では比較のおとなしい生徒が、積極的に前に出ている姿があり、生徒の意外な一面の発見となりました。文化祭でも、普段の授業では居眠りなど、真面目とは言えない授業態度の生徒が、一生懸命大きく口をあけて合唱している姿はとても印象的でした。

このような学校行事を通して、今まで見ることができなかった生徒の一面や、担当の関係で関わるのが少なかった生徒のことを理解するきっかけになりました。行事以外でも、休み時間、昼休みや、掃除の時間の様子も見るように心がけています。できるだけATの控室にこもらず、少しでも長い時間を生徒と共にすることで、日々新しい生徒の一面の発見につながると思います。このようにして、授業以外の学校生活を通して知った生徒の姿を、今後の生徒との関わりにも活かしていきたいと考えています。

また、生徒理解を深めるために必要だと感じていることは、生徒の名前を覚えることです。生徒から私の名前は覚えてもらいましたが、まだまだ生徒の名前は把握できていません。一人一人の名前を呼びながら

生徒と会話ができれば、生徒も「名前を覚えてくれている」という認識を持つことができて、生徒との距離も近くなると思います。コミュニケーションも取りやすくなり、信頼関係の構築にもつながります。生徒理解を深める方法の一つとして、名前を徐々に覚えていくことも今後の課題です。

来年の6月には、松本中学校で教育実習を行うことが決まっており、今のATの活動は来年に向けていい経験になっています。前期に1度、授業を行わせていただきましたが、すでに2度目の授業を行わせてもらえることも決まりました。次回行わせていただく授業や、来年の実習に繋げるためにも、現在の生徒理解の目標を心がけて活動していきます。数学科の先生方以外でも、担任を持っている先生方から学級運営について伺い、授業づくりのアドバイスもいただきながら将来の教育活動を見据えた、よりよいAT活動としていきたいです。



ボランティア通信～松本中学校～

一人で抱え込まない

人間科3年 落合宏弥

今年度の6月から、松本中学校で保健体育科のATとして活動させていただいています。ATを始めた理由を、二つ挙げたいと思います。

まず一つ目に、私が中学生の頃は学習指導要領が変わりました。他にも、スポーツ種目のルールも細かい部分で改正され、生徒に対する教え方も徐々に変化しています。例えば、バレーボールについてです。私が中学生の頃はオン・ザ・ボールといってボールを操作するときの動作を主に練習していました。アタックやパスのことを言います。しかし、現在はオフ・ザ・ボールといってボールをもっていないときの動き（守備時の動き方や味方がアタックしたボールがもしブロックされたときの動き方）を身につけることが重要視されています。このように、昔と今の違いがどのぐらいあるか実際に見たいと思ったからです。

二つ目は、現在の子どもたちを見たいと思ったからです。大学の教職課程の授業などで先生方から子どもたちの様子を聞くことが多々あります。子どもたちが日々成長しているなどの話を聞いていると、早く実際に見たいという気持ちが強くなりました。以上の二つがATを始めた理由です。

ATの最初の日は、どんな雰囲気なのか想像もつかず緊張していたのを覚えています。生徒と多く関わろうと思い、最初はとにかく挨拶でコミュニケーションをとりました。声かけが難しく、どうしたらいいかわからず、困惑してしまいました。前回のボランティア演習で、そのことを他のATに相談したところ、「とりあえず直接先生に聞いてみては？」という意見をいただきました。実際に質問したところ、「どんどん積極的に関わりな」という意見をいただきすっきりしました。現在は始めた頃と比べ、自然とコミュニケーションをとれるようになったと思います。

ATとしてしかできない経験があると思います。先生ではないけれど先生と呼ばれる

微妙な立場だからこそ、より客観的にもなれ、より個別に対応できます。週一回で、その上半日という少ない時間ではありますが、とても濃い時間だと思います。先生や生徒たちから多くのことが学べるよう、これからのATの活動に楽しんで取り組みたいと思います。



ボランティア通信～松本中学校～

現場を知る

経済学科3年 時盛勇也

10月の終わりから松本中学校でATを始めることになりました。なぜ始めようかと思っただかという、来年教育実習が控えているのはもちろんのこと、将来自分が教員になった時のために今のうちから教育現場というものを知って様々なことを経験しておきたいと思っただかです。実際、教育現場でも時代が変化したことによって教員の理想と現実のギャップが生まれ教員の離職率が増えていることも事実です。だからこそ、今の生徒の状態や雰囲気を知っておく必要があると思っただか。

目標は「現状を知って一人ひとりとコミュニケーションを取って、どうすれば生徒が授業に集中できるか試す」ことです。この目標を達成するために中学生の現状を知って自分に何ができるか探りたいと思っただか。

初めて松本中学校に行ったとき、驚くことがたくさんありました。その時は文化祭の合唱コンクール前ということで、朝の時間に合唱の練習がありました。教室に行く、ほとんどの生徒が合唱の練習を始めていないのです。女子生徒はしっかりとパート練習をしていましたが、男子生徒は友達と話している、遊んでいる、ボードゲームをしているといった状態でした。そのため

私が注意をして「何故練習をしないのか」と生徒に聞いたところ、「自分はもう覚えていて完璧」「やる気になれない」というような答えが返ってきました。有効な声かけができず、ただ時間が過ぎてしまいました。後で担任の先生に聞いてみると「今の中学生は合唱コンクールに一生懸命になれない。前期は今の状態よりひどかったがだいぶ落ち着いた方だ」と仰っていました。私が中学生の時合唱コンクールと言ったらクラスで優勝するという想いがありました。練習も自らリーダーを率先垂範でやってクラスの皆で頑張って優勝するといった経験をしました。今の中学生がこういった行事に一生懸命になれない、仲間と何かを達成することの楽しさを味わうことができないことがもったいないと思っただか。どうせなら中学生のうちにしかできないことを精一杯やって欲しいと思っただか。この経験からこういった生徒たちの意識も変わって欲しいと思っただか。中学生のうちにしかできないこの経験をみんなで味わってほしいからこそ出てきた想いです。自分が先生なって担任を持った時、そこにも熱を注いでいこうと思っただか。

自分の立てた「どうすれば生徒が授業に集中できるか」という目標を達成するために今後も自ら積極的に生徒一人ひとりとコミュニケーションを図り、生徒一人ひとりをしっかりと見ていきます。

発行日:2015年2月14日

発行所:神大ユース・サポート・プロジェクト(JYSP)

TEL:045-481-5661(内線4352)

FAX:045-413-4154

E-mail:jyssp-jimukyoku@kanagawa-u.ac.jp

URL:http://www.kanagawa-u.ac.jp/teacher_training_course/jyssp/